



COBOLからJavaへの言語リニューアルサービス

「長年運用してきた貴重なCOBOL資産を、Javaに変更したい」
 そのようなニーズにお応えするために、
 スピーディーかつ高品質な変換を実現します。

サービスの概要

【特長1】 独自ライブラリによる特殊処理の実現

COBOL言語特性に依存する部分を独自のライブラリに集約実装することで、保守性の高いJavaソース変換を実現

【特長2】 機械変換率90%以上

お客さまの資産特性に合わせた変換仕様を設計し、ツール群へ反映させることで、高い機械変換率を実現

【特長3】 Unicodeへの対応

これまでCOBOLからの変換で困難と言われていた、Unicode(UTF-8)に対応したJavaソース変換を実現

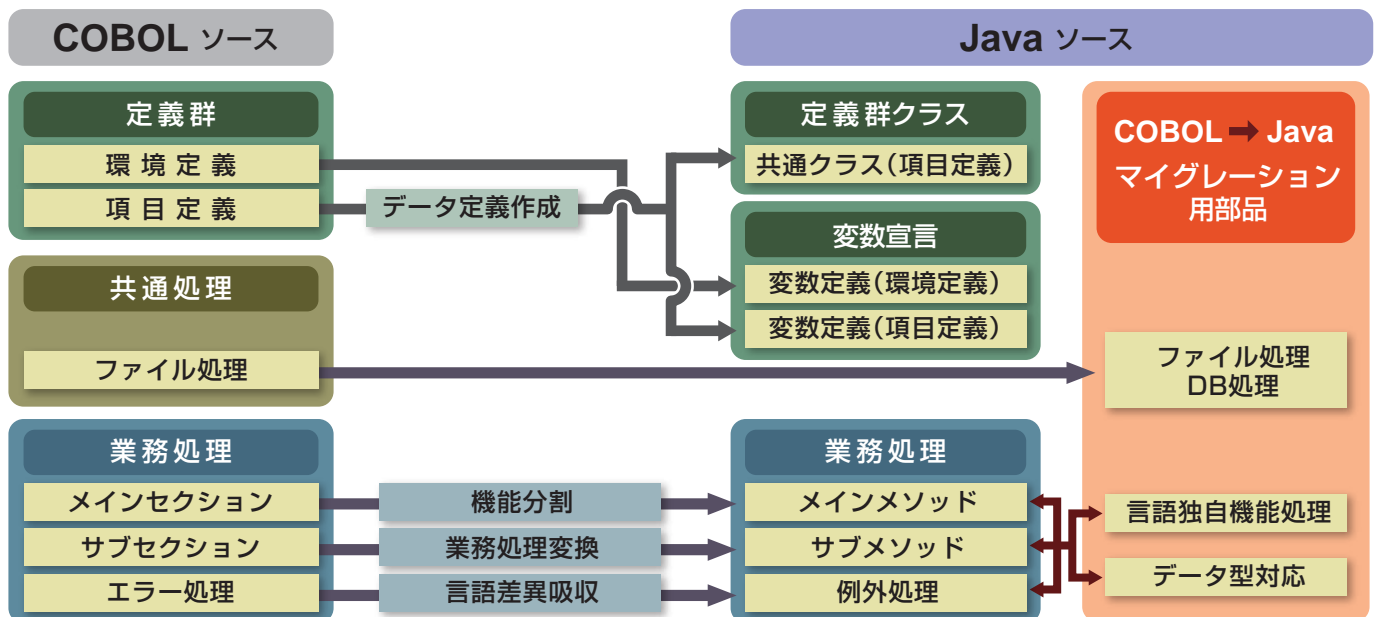
機械変換率

90%以上
 実現*

※過去案件ではすべて95%以上の実績となっています。

COBOLからJavaへの言語変換の仕組み

定義群、共通処理、業務処理の3つに分割したCOBOLソースから、資産調査分析作業で解析した情報をもとにJavaソースに変換します。Javaソースで表現するには複雑な処理が必要となる部分(ファイル処理など)は、当社が独自に開発した「COBOL⇒Javaマイグレーション用部品」を用いることで、COBOLソースから見た可読性を確保しています。



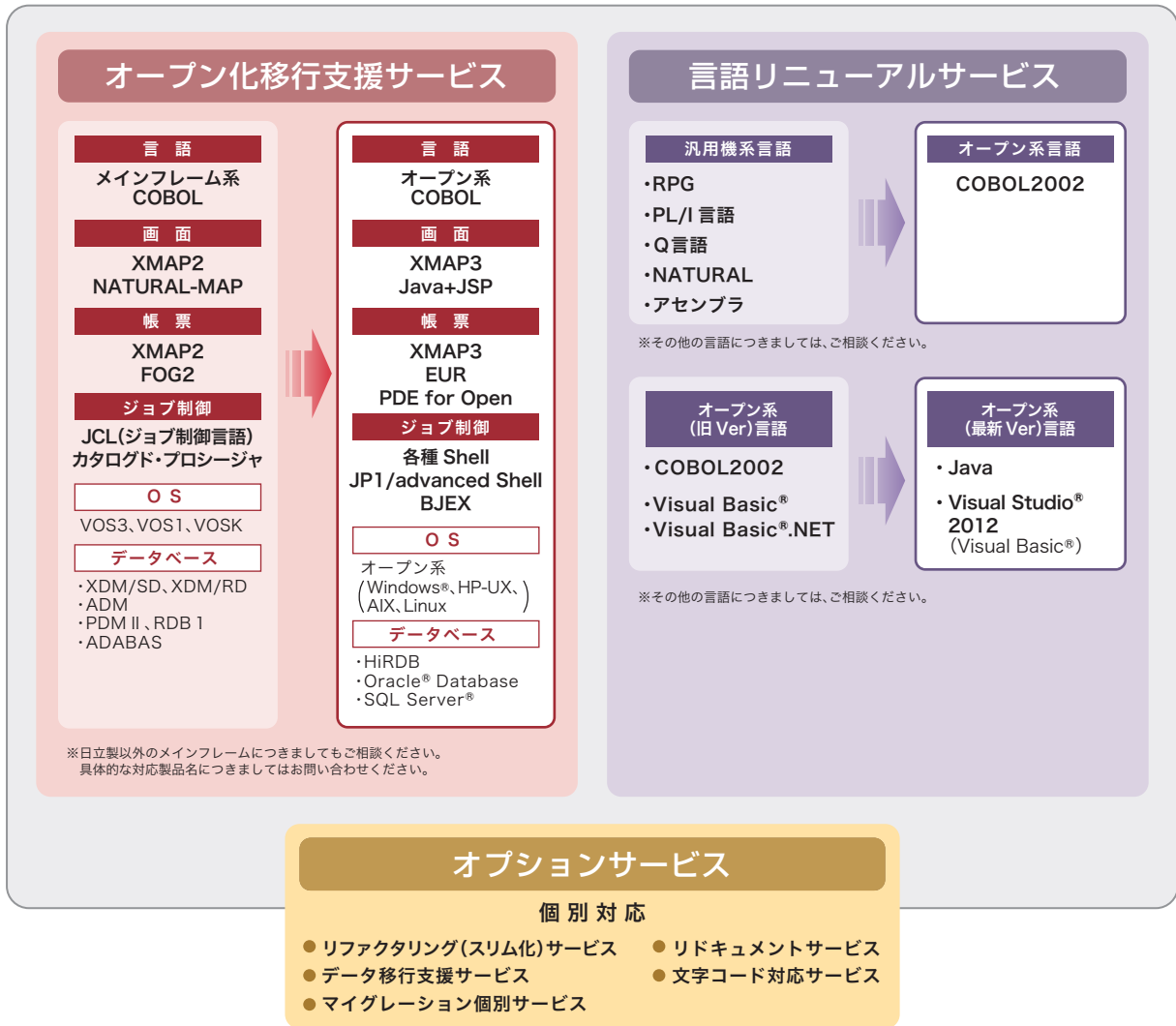
マイグレーションサービスメニュー

本サービスは、従来からの環境・方式で稼働しているお客さま資産（業務システム）を、お客さまが希望される新しい環境・方式の下で動作可能な状態にマイグレーションするものです。

当社がこれまで培ってきた経験・ノウハウ・ツールを駆使し、お客さまのご要望に合わせたサービスメニューを提供します。

マイグレーション分析診断サービス

最適化の
スタートは
ここから



商標に関する表示

● Windows, SQL Server, Visual BasicおよびVisual Studioは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。● OracleとJavaは、Oracle Corporationおよびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。● AIXは、米国における米国International Business Machines Corporationの登録商標です。● Linuxは、Linus Torvalds氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。● ADABASは、独逸 Software AGの商品名称です。● HP-UXは、米国 Hewlett-Packard Companyのオペレーティングシステムの名称です。● その他記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

※ 本カタログの内容は、2018年4月現在のものです。

※ 製品仕様は改良のため予告なく変更することがあります。ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

※ 本製品を輸出される場合には、「外国為替及び外国貿易法」の規制ならびに米国輸出管理規制など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。
なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

株式会社 日立社会情報サービス

<http://www.hitachi-sis.co.jp/>

ソリューション・製品に関するお問い合わせ

ソリューション・製品サイト

<http://www.hitachi-sis.co.jp/migration/>

HSIS-016

2018.4